伊豆諸島におけるキハダ等基礎的生態研究

【研究概要】

八丈島における曳縄漁の主な対象魚種はカツオであったが、漁獲量の減少により出漁隻数も減少している。一方で、キハダの漁獲量、一日一隻当たり漁獲量（CPUE）は増加傾向となっており、漁業者のキハダに対する期待が高まっている。水揚げされたキハダは、学校給食に利用されるなど島内の需要も高まっている。

そこで本研究により、伊豆諸島海域で不明なキハダの生態解明をすすめ、漁場予測を含めた曳縄漁の操業支援につなげていく。

① 調査船釣獲個体 32 尾、漁獲物 293 尾の尾叉長組成を測定した。また、外部委託により、昨年度分のサンプルを含めて、83 尾の胃内容物分析を実施した。

② 通常標識による標識放流を 73 尾(うち、アーカイバルタグによる標識は 51 尾)実施。令和 8 年 6 月現在、アーカイバルタグ標識個体 4 尾が再捕された。また、再捕された個体についてデータを分析し、日周鉛直移動を確認した。

③ 曳縄試験操業の釣獲効率と海況要因に関する一般化線形モデルを構築した。また、曳縄試験操業時等の海洋観測結果について、クラスター解析により、出現する水塊を整理した。

④ 漁獲量と黒潮流路の関係について、一般化線形混合モデルを構築した。また、漁獲量の正確な把握に向けて、内臓除去重量から原重量を推定する変換式の構築を行った。